

1 次式とその項

文字を使った式は、いくつかの項からできている。

$1.2x - 0.3$ の式では、
文字をふくむ部分の $1.2x$ と、
数の部分の -0.3 で表されている。

このとき、 $1.2x$ 、 -0.3 のそれぞれを項という。

ここで、 $1.2x$ のように 1 つの文字をふくむ項を、1 次の項という。
1 次の項の文字にかけられる数を係数といい、 $1.2x$ の係数は 1.2 となる。

1 次の項だけの式や、1 次の項と数の項で表される式を 1 次式という。

1 次式とその項や係数

1 次式の $1.2x - 0.3$ は、 $1.2x$ と -0.3 の 2 つの項で表されている。
1 次の項は $1.2x$ で、この項の係数は 1.2 になる。

1 次式の例： $0.3x + 0.5$ 、 $-0.2a$

1 次式の項をまとめる

1 次式と同じ文字の項や数の項は、それぞれまとめて計算することができる。

$$\begin{aligned} 1 \quad & 0.2x + 0.3x \\ & = (0.2 + 0.3)x \\ & = 0.5x \end{aligned}$$

$0.2x$ と、 $0.3x$ のような文字の部分が同じ項を
同類項という。

$$\begin{aligned} 2 \quad & 0.3x + 0.2 - 1.4x + 2.5 \\ & = 0.3x - 1.4x + 0.2 + 2.5 \\ & = -1.1x + 2.7 \end{aligned}$$

順番を変えて、
1 次の項と、数の項をまとめる